



このガイドでは、Fusion Middleware Control などのツール、およびログ・ファイルを使用した Oracle Business Intelligence の問題の診断および解決方法を説明します。

これらおよびその他のタスクの詳細は、Oracle Technology Network の [Oracle BI EE ドキュメント](#) を参照してください。



ログ・ファイルおよびログ・メッセージについて

Fusion Middleware Control ログ・ビューアを使用して、Oracle Business Intelligence コンポーネントのログ・エントリを検索して表示できます。ログ・ファイルを検索すると、ログ・メッセージが見つかります。たとえば、特定の日付範囲、ユーザー、ユーザー・トランザクションまたはメッセージのレベル(エラー、警告、通知など)をターゲットとするフィルタを適用できます。Fusion Middleware Control ログ・ビューアから、ログ・ファイル全体を表示することもできます。

また、特定のユーザー・トランザクションを複数のログ・ファイルで検索することもできます。

トランザクション・レベルのロギングでは、実行コンテキスト ID(ECID)と呼ばれる一意のトランザクション ID が、ユーザー・リクエストに反応して生成されるすべてのログおよびエラー・メッセージに関連付けられます。このロギングによって、基となる問題の原因を迅速に診断できます。

ログ・メッセージの表示

1. Fusion Middleware Control を起動して、Business Intelligence の「概要」ページに移動します。
2. 「診断」ページの「ログ・メッセージ」タブを表示します。
3. 「最新のエラー」および「最新の警告」リージョンを表示します。
4. 「ログ・ファイルの表示/検索」および「コンポーネント別のログ・ファイルの表示/検索」の下のリンクを選択して、すべてのログ・ファイルのメッセージまたは指定されたコンポーネントのログ・ファイルのメッセージを表示します。Fusion Middleware Control では、選択に応じた「ログ・メッセージ」ページにメッセージが表示されます。
5. 適切な検索基準を入力して、対応するエラー・メッセージを表示します。
メッセージを ECID 別に表示するには、「**関連メッセージの表示**」をクリックし、「**ECID(実行コンテキスト ID)ごと**」メニュー・オプションを選択します。
6. 1つ以上の行を選択して、そのメッセージのログ・ファイル・エントリの詳細を表示します。

Overview Availability Capacity Management **Diagnostics**

Log Messages Log Configuration

Most Recent Errors

Severity	Date/Time	Component	Message
No recent errors to report			

More recent errors

Most Recent Warnings

Severity	Date/Time	Component	Message
No recent warnings to report			

More recent warnings

View / Search Log Files

Search all the log files using the Log Viewer

- Presentation Services Log
- Server Log
- Scheduler Log
- JavaHost Log
- Cluster Controller Log
- Essbase Log
- Action Services Log
- Security Services Log
- Administrator Services Log

Log Messages

Search

> Selected Targets (47)

Date Range: Most Recent 1 Days

* Message Types: Incident Error Error Warning Notification Trace Unknown

Message: contains

View Show Messages View Related Messages Export Messages to File

Time	Message Type	Message ID	Message
Feb 23, 2013 8:06:02 AM MST	Warning		A call to flushChanges on the current MD
Feb 23, 2013 8:06:03 AM MST	Warning		A call to flushChanges on the current MD
Feb 23, 2013 8:06:55 AM MST	Warning	LIBOVD-40067	Server 2606:b400:2010:504b:8423:c712
Feb 23, 2013 8:07:55 AM MST	Warning	LIBOVD-40067	Server 2606:b400:2010:504b:8423:c712
Feb 23, 2013 8:08:55 AM MST	Warning	LIBOVD-40067	Server 2606:b400:2010:504b:8423:c712
Feb 23, 2013 8:08:57 AM MST	Warning		A call to flushChanges on the current MD
Feb 23, 2013 8:09:00 AM MST	Warning		A call to flushChanges on the current MD
Feb 23, 2013 8:09:01 AM MST	Warning		A call to flushChanges on the current MD
Feb 23, 2013 8:09:08 AM MST	Warning	ADF_FACES...	Attempt to synchronized unknown key: v
Feb 23, 2013 8:09:09 AM MST	Warning		A call to flushChanges on the current MD
Feb 23, 2013 8:09:10 AM MST	Warning	ADF_FACES...	Attempt to synchronized unknown key: v

ログ・ファイルのメッセージ・レベルについて

ログ・ファイル・メッセージのレベルによって、ログ・ファイルに書き込まれるメッセージの詳細度と重要度のレベルが決まります。

ログ・ファイルのメッセージ・レベルは、右の表で説明します。

レベル	説明
インシデント・エラー	原因不明の重大な問題。問題を解決するには、Oracle サポート・サービスに問い合わせる必要があります。 パフォーマンスには影響ありません。
エラー	製品の不具合が原因ではない、システム管理者による対応が必要な問題。 パフォーマンスには影響ありません。
警告	エラーの発生を回避するために確認を必要とし、対応が必要となる可能性がある処理が実行されたこと、または条件が検出されたこと。 パフォーマンスには影響ありません。
情報	通常のアクションまたはイベント。ログイン完了などのユーザー操作や、ログ・ファイルのローテーションなどの自動操作です。このレベルには、警告、エラーおよびインシデント・エラー・ロギングも含まれます。 パフォーマンスには影響ありません。
構成	構成関連のメッセージまたは問題。このレベルには、情報、警告、エラーおよびインシデント・エラー・ロギングも含まれます。 パフォーマンスへの影響はわずかです。
普通	デバッグまたはパフォーマンス監視に使用されるトレースまたはデバッグ・メッセージ。通常、このメッセージには詳細なイベント・データが含まれており、内部の実装の詳細がわからなくても理解できます。このレベルには、構成、情報、警告、エラーおよびインシデント・エラー・ロギングも含まれます。 パフォーマンスに少し影響します。
詳細	かなり詳細なトレースまたはデバッグ・メッセージ。製品に関する豊富な知識を持つ Oracle サポート・サービスの技術者であれば、内部の実装の詳細を完全に把握していなくても理解できます。このレベルには、普通、構成、情報、警告、エラーおよびインシデント・エラー・ロギングも含まれます。 パフォーマンスに大きく影響します。
最も詳細	非常に詳細なトレースまたはデバッグ・メッセージ。この製品を使用し、メッセージを生成するサブシステムの実装の詳細を十分に把握している Oracle 開発者を対象としています。このレベルには、詳細、普通、構成、情報、警告、エラーおよびインシデント・エラー・ロギングも含まれます。 パフォーマンスに非常に大きな影響があります。

ログ・ファイルのローテーションについて

ログ・ファイルのローテーションとは、ログ・ファイルが指定されたしきい値や日付を超えたときに新しいログ・ファイルが作成されることを言います。例として、Oracle BI スケジューラのコンポーネント・ログ構成ファイルの

MaximumFileSizeKb 設定を考えてみましょう。この設定で指定されるサイズをログ・ファイルが超えると、既存のスケジューラ・ログ・ファイルの名前が変更され、新しいログ・ファイルが作成されます。また、MaximumLogAgeDay の設定より古いログ・ファイル日付も削除されます。

それぞれの BI コンポーネントには異なるログ・ファイル名が付けられており、ログ構成ファイル内に独自の設定が存在します。たとえば、スケジューラのファイル・ネーミング規則は次のとおりです。

- nqscheduler.log – 最新のログ・ファイル。
- nqscheduler-*<n>*.log – 名前が変更された、以前のログ・ファイル。

<n> = 日付とタイムスタンプ(例: nqscheduler-20100909-2135.log)

ログ・ファイルのローテーション・ポリシーの構成およびログ・レベルの指定

ログ・ファイルのサイズと経過時間に基づいて、新しいログ・ファイルを作成する必要があるタイミングを決定する基準を構成できます。ログ・ファイルに保存するメッセージのレベルを決定するログ・レベルも指定できます。

1. Fusion Middleware Control を起動して、Business Intelligence の「概要」ページに移動します。
2. 「診断」ページの「ログ構成」タブを表示します。
3. 「構成をロックして編集」をクリックします。
4. 適切な要素の入力を完了します。たとえば、使用するログ・レベルを指定できます。
5. 「適用」、「変更のアクティブ化」の順にクリックします。
6. Business Intelligence の「概要」ページに戻り、「再起動」をクリックします。

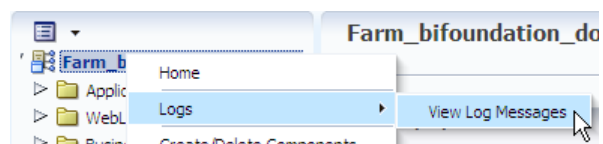
The screenshot shows the 'Log Configuration' page in Fusion Middleware Control. The 'Log Messages' tab is selected. The page includes the following sections:

- Log Messages:** Maximum File Size (10240 KB), Maximum Log Age (10 Days).
- Query Logs:** Maximum File Size (100000 KB), Maximum Log Age (10 Days).
- Default Log Level:** Log Level (Info).
- Component Specific Log Levels:** Presentation Services Log Level (Default), Server Log Level (Default), Cluster Controller Log Level (Default), Scheduler Log Level (Default), JavaHost Log Level (Default).

ログ・ビューアを使用した Oracle Business Intelligence の問題の診断

Fusion Middleware Control ログ・ビューアを使用して、Oracle Business Intelligence に関する問題の解決に役立つメッセージを検索できます。

1. Fusion Middleware Control を起動します。
2. bifoundation ドメインを右クリックして、「ログ」、「ログ・メッセージの表示」の順に選択します。

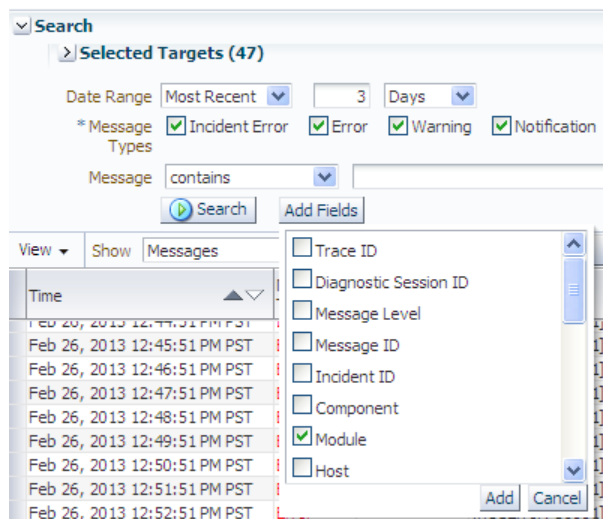


「ログ・メッセージ」ページが表示されます。ログ・ビューアはすべてのログ・ファイルから行を収集して、このページに表示します。行にフィルタを適用して、必要な行のみを表示できます。

The screenshot shows the 'Log Messages' page in Fusion Middleware Control. The page includes the following elements:

- Search:** Search bar, Selected Targets (47), Date Range (Most Recent, 1 Hours), Message Types (Incident Error, Error, Warning, Notification, Trace, Unknown), Message (contains).
- Table:** Table with columns: Time, Message Type, Message ID, Message.
- Buttons:** View, Show Messages, View Related Messages, Export Messages to File.

Time	Message Type	Message ID	Message
Feb 26, 2013 12:44:51 PM PST	Error	[nQSError: 36001]	Unable to load the dll libtdclient.so.
Feb 26, 2013 12:45:51 PM PST	Error	[nQSError: 36001]	Unable to load the dll libtdclient.so.
Feb 26, 2013 12:46:51 PM PST	Error	[nQSError: 36001]	Unable to load the dll libtdclient.so.
Feb 26, 2013 12:47:51 PM PST	Error	[nQSError: 36001]	Unable to load the dll libtdclient.so.
Feb 26, 2013 12:48:51 PM PST	Error	[nQSError: 36001]	Unable to load the dll libtdclient.so.
Feb 26, 2013 12:49:51 PM PST	Error	[nQSError: 36001]	Unable to load the dll libtdclient.so.
Feb 26, 2013 12:50:51 PM PST	Error	[nQSError: 36001]	Unable to load the dll libtdclient.so.
Feb 26, 2013 12:51:51 PM PST	Error	[nQSError: 36001]	Unable to load the dll libtdclient.so.



3. リストのフィルタリングを開始するには、必要なメッセージを特定する検索基準を入力します。

- エラーが発生した日付を大まかに認識している場合は、次のようにします。
 - a. 「日付範囲」を「時間間隔」に設定します。
 - b. フィルタリングの開始日と終了日を選択します。
- エラーが継続的に発生している場合は、次のようにします。
 - a. 「日付範囲」を「最新」に設定します。
 - b. 「日」を選択して、1や3などの数値を指定します。
- メッセージ・タイプでは、「インシデント・エラー」、「エラー」、「警告」および「通知」を選択します。返されるメッセージの数が多すぎる場合は、「通知」の選択を解除して、エラーと警告のみを表示します。

「通知」を選択する利点は、Oracle Business Intelligence の実行内容を確認できることで、不具合が起きた箇所の特定に役立ちます。

4. Oracle Business Intelligence のメッセージにフィルタを適用する手順は次のとおりです。

- a. 「フィールドの追加」をクリックし、「モジュール」を選択して、「追加」をクリックします。
- b. 「モジュール」が「次を含む」に設定されていることを確認してから、次の値を入力します。

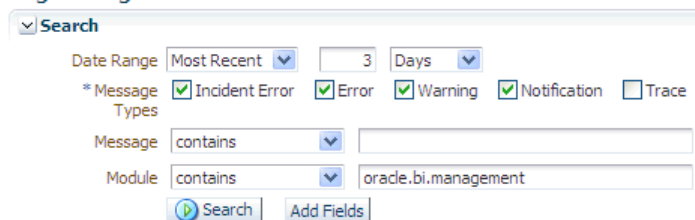
oracle.bi.management

この値によって、Oracle Business Intelligence のシステム管理用のすべてのログ・エントリの作成元である Java パッケージの名前を指定します。

5. 「検索」をクリックします。

このページには、診断対象の問題の原因となったエラーと警告を含め、検索基準と一致するすべてのログ・メッセージが一覧表示されます。

Log Messages



注意: ログ・メッセージのコピーを保存するには、「メッセージをファイルにエクスポート」をクリックして、「Oracle 診断ログ・テキスト(.txt)として」またはそれ以外の必要な形式を選択します。

Time	Message Type	Message ID	Message
Feb 23, 2013 2:02:34 PM PST	Notificat...		BIInstanceStatusMetricMBeanImpl; getServiceStatus: currentPrinc
Feb 23, 2013 2:02:35 PM PST	Notificat...	OBI-SYSMA...	Summary of current system component statuses; Up: 6; Down: 0;
Feb 23, 2013 5:02:33 PM PST	Notificat...		BIInstanceStatusMetricMBeanImpl; getServiceStatus: currentPrinc
Feb 23, 2013 5:02:34 PM PST	Notificat...	OBI-SYSMA...	Summary of current system component statuses; Up: 6; Down: 0;
Feb 23, 2013 8:02:33 PM PST	Notificat...		BIInstanceStatusMetricMBeanImpl; getServiceStatus: currentPrinc
Feb 23, 2013 8:02:34 PM PST	Notificat...	OBI-SYSMA...	Summary of current system component statuses; Up: 6; Down: 0;
Feb 23, 2013 11:02:33 PM PST	Notificat...		BIInstanceStatusMetricMBeanImpl; getServiceStatus: currentPrinc
Feb 23, 2013 11:02:34 PM PST	Notificat...	OBI-SYSMA...	Summary of current system component statuses; Up: 6; Down: 0;
Feb 24, 2013 2:02:33 AM PST	Notificat...		BIInstanceStatusMetricMBeanImpl; getServiceStatus: currentPrinc
Feb 24, 2013 2:02:34 AM PST	Notificat...	OBI-SYSMA...	Summary of current system component statuses; Up: 6; Down: 0;

Rows Selected: 1 | Columns Hidden: 21 | Total Rows: 95

Feb 23, 2013 2:02:34 PM PST /Farm_bifoundation_domain/bifoundation_domain/AdminServer/biadminservlets(11.1.1) (Application Deployment)

Message Level	1	Host IP Address	10.241.89.245
Relationship ID	0	User	<WLS Kernel>
Component	AdminServer	Thread ID	DmsThread-2
Module	oracle.bi.management.adminservices	ECID	0000Jo0hQaD33FHLIuO5yf1H9Vj000002
Host	slc02kxw		
Message	BIInstanceStatusMetricMBeanImpl; getServiceStatus: currentPrincipal is null		